

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	令和4年度循環経済等に資する魅力的な脱炭素ライフスタイル創出・浸透事業		
事業の実施者	団体等	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	
	行政	横浜市温暖化対策統括本部調整課	
事業の目的	2050年までの脱炭素化「Zero Carbon Yokohama」の実現を目指し、環境と経済の好循環や企業活動の持続的な成長を目指すサーキュラーエコノミー構築も念頭に、市民一人ひとりが脱炭素ライフスタイルの取組を進められるよう、循環経済等に資する魅力的な脱炭素ライフスタイルの創出・浸透を図るために協働して事業を進める。		
事業の内容	「実証実験の実施」「温室効果ガス削減効果の算出」「ビジネスモデル・地域モデルに係るアイデアの創出」「社会実装に向けた仕組みの構築」「事業全体の運営管理・プロモーション」を実施。		
役割及び責任分担等	事業項目	事業者の役割	行政の役割
	実証実験の実施	<ul style="list-style-type: none"> 実証実験の企画及び実施 アプリ開発、運用 データ分析、検証 実証実験の記録及び報告書の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 本事業に係る企画調整及び検討 行政の持つ媒体による広報・PR
	温室効果ガス削減効果の算出	<ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガス削減効果の算出に向けた取組の企画及び実施 温室効果ガス削減効果の算出に向けた取組の記録及び報告書の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 本事業に係る関係者調整 本事業に関連する国や他都市等からの問合せ対応
	ビジネスモデル・地域モデルに係るアイデアの創出	<ul style="list-style-type: none"> アイデア創出に向けたイベント等の企画及び実施 アイデア創出に向けたイベント等の記録及び報告書の作成 	<ul style="list-style-type: none"> その他協議の上、双方で書面にて合意した事項
	社会実装に向けた仕組みの構築	<ul style="list-style-type: none"> 社会実装に向けた仕組み構築に向けた調査の企画及び実施 社会実装に向けた仕組み構築に向けた調査内容の記録及び報告書の作成 	
	事業全体の運営管理・プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> 事業全体の運営管理及びプロモーションに係る企画及び実施 ホームページの企画等 チラシ等の作成 事業に対する意見聴取 事業全体の運営に係る記録及び報告書の作成 	
実施期間	令和5年1月25日～令和5年3月31日		

記入日	2023 年 3 月 31 日
記入者	<p>[団体等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体等名： あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 ・記入責任者 氏名： 森脇 新也・安藤 憲嗣 連絡先： 045-211-1661
	<p>[行政]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部署名： 横浜市温暖化対策統括本部調整課 ・記入責任者 氏名： 竹原 一輝・坂井田 麻子 連絡先： 045-671-2661

2 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

①事業計画段階

		団体等	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合ってよく理解することができましたか。	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合って決めることができましたか。	A	A
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合って役割分担を決めることができましたか。	A	A
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合ってよく理解することができましたか。	A	A
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A

②事業実施段階

		団体等	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	A
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	A
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	A	A
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A

③ふりかえり段階

		団体等	行政
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合って共有できたか。	B	A
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合って確認することができたか。	B	B
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	A	A
4	期待された事業成果を得られることができたか。	B	B

3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

事業の計画づくり (協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 <ul style="list-style-type: none">・本事業は、令和4年度から6年度までの3か年事業を想定して実施するものであり、令和4年度の事業計画については、目的・実施内容・成果等を共有しながら進めることができた。・一方、脱炭素ライフスタイルの創出・浸透という大きなテーマであることから、事業全体のビジョンや3か年計画については、完全な認識の一致までには至らず、継続して令和5年度検討することとなった。
【今後改善が必要と思われること】 <ul style="list-style-type: none">・多様な考えを共有・尊重することはできたが、今後、令和4年度に得られた客観的なデータをもとに、外部の有識者の知見も取り入れながら、多様な考えを統合・整理していく必要がある。
事業実施 (協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 <ul style="list-style-type: none">・実証実験に用いるアプリケーション開発、イベントの企画段階等ではいくつか認識の相違もあったが、協議を重ねることで双方が納得できる内容で事業を実施することができた。
【今後改善が必要と思われること】 <ul style="list-style-type: none">・今後実証実験で用いるアプリケーションを開発する場合は、開発担当に会議に出席いただきくことで、持ち帰りにすることなく、効率的に進める必要がある。・イベントの実施については、単発の企画で終わらないよう、3か年計画を意識したストーリー性のある設計が必要である。
事業の成果 (協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)
<ul style="list-style-type: none">・実証実験については、当初期待通りのモニター数を募集でき、移動データを収集できた。・一方、温室効果ガスの排出削減効果については、試行的な実証にとどまったため、現状把握（排出量の把握）にとどまった。・アイデア創出については、イベントを通じ、当初期待通りの参加者人数を動員でき、令和5年度につながる「仲間集め」ができた。また有益な講演も実施でき、参加者・事業メンバーの知見も深まった。・社会実装の仕組み検討については、事例を収集・考察でき、令和5年度につながる知見を得ることができた。
自由記入欄
<ul style="list-style-type: none">・事業を通じ、地域住民とともに「マーケット・イン志向」で事業モデルを検討すること、小さなクラスターで「スモールビジネス」から深く考えること、目的としての脱炭素ではなく「結果としての脱炭素」を志向し、地域住民が自然に脱炭素ライフスタイルに移行できる仕掛けを考えることの重要性を肌で感じることができた。脱炭素ライフスタイルの創出・浸透という大きなテーマではあるが、step by stepで成功体験を積み上げながら事業を進めていきたい。